

Post-it Tabletop Easel Pad

3M

四万十町地域イノベーター養成講座

# 第5回 四万十町 地域イノベーター養成講座

## ビジュアルレポート



## 実施概要

□実施名称 第5回四万十町地域イノベーター養成講座

□日 時 平成29年11月26日(日) 13時00分～

□会場 四万十町農村環境改善センター

□主催 四万十町役場人材育成推進センター

□実施内容 「地域のために何かしたい」「起業をしてみたいけど、まだ勇気がない」「何をして良いのかわからない」といった方々を対象に全6回の地域イノベーター養成講座を開催。一人一人が自分ごととして、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びの場。

## プログラム

13:00-13:05	主催者挨拶
13:05-13:30	チェックイン
13:30-14:00	マイプロアクション共有
14:00-15:30	プレゼンテーション&フィードバック
15:30-16:15	チームでブラッシュアップ
16:15-16:30	チェックアウト&クロージング

高知大学・須藤によるプログラム説明が行われたのち、参加者全員で1ヶ月間のアクションについて共有した。前回の講座から1ヶ月ぶりの開催となり、参加者皆で互いの近況報告やプロジェクトの進捗について報告しあった。



須藤による説明



チェックインの様子



アクション共有の様子



- 1 一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す
- 2 “ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す
- 3 ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

**自分に基づいた (My)**

**「何かを、プロジェクトの形にして (pjt) やってみる」**

**ことから始まる、自分や世の中の変化の物語**

自らの経験の中から、

自分のミッションを生み出していく

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日： 場所：
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ヒストリー 音 (～小学校)	人生グラフ：横軸は年で、縦軸はイキキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見る化しよう！	
(～中学・高校)		
(～専門・大学)	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
(～現在)		
今		
マイプロジェクトの源泉へ		

## ← me編シート

- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

## project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

PROJECT編	
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で！	
■実践したいプロジェクトの概要	
■「やってみたい！」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか？

- ① **Why** : どんな「わたし」が何を夢描いているのか？
- ② **What** : それを実現する、何をするプロジェクトなのか？
- ③ **How** : プロジェクトを進めるため、進捗を管理しよう



① **Why?**

プロジェクト

② **What?**

プロジェクト

プロジェクト

わたしたち



③ **How?**  
進捗管理

ビジョン実現に向けて、学習と軌道修正をくりかえす

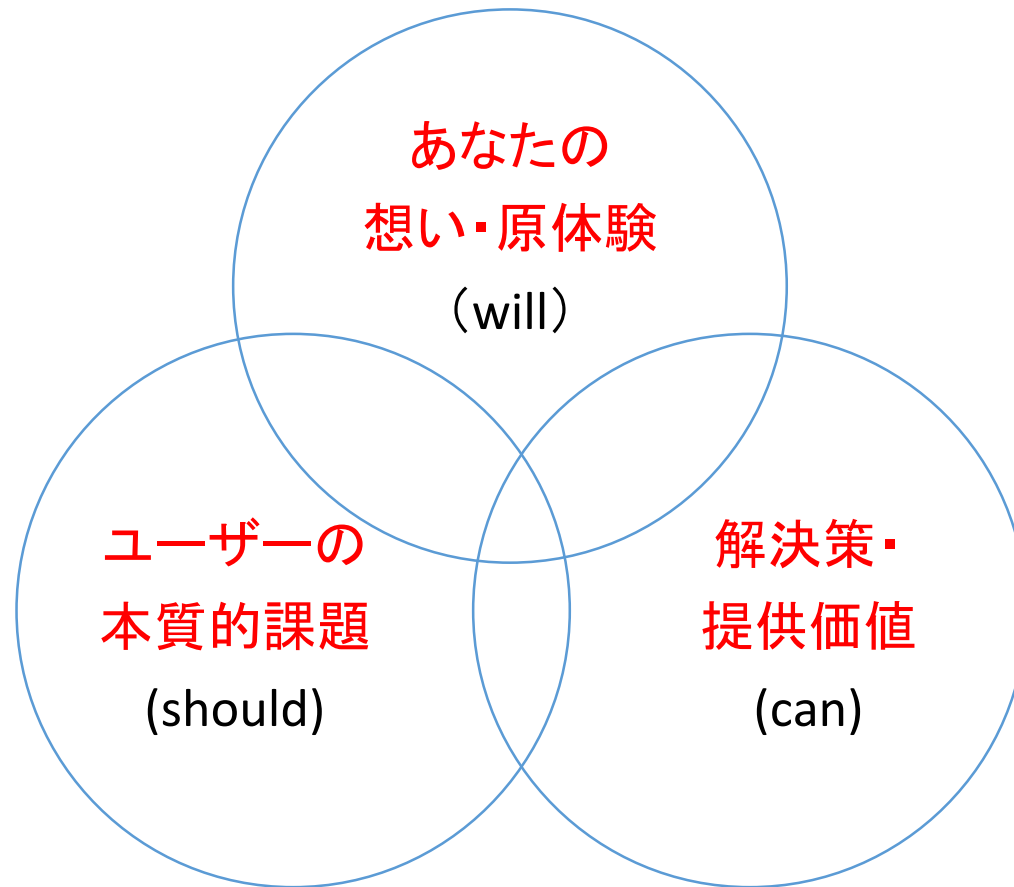
マイプロジェクト =  
自分に基づいた (my)  
「何かを、プロジェクトの形にして (project) やってみる」ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

挑戦を支える“居場所”(セーフスペース)

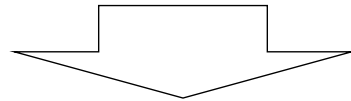
- 自分たちとプロジェクトの“つながり”
- Yes, Andできる仲間やコミュニティの存在

出所: ボーンSTEIN& デイヴィス(2010訳書, p.14) 滝加単修正  
※ 井上英文作成

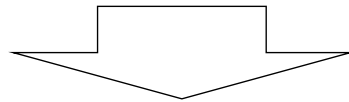




**STEP1:** “My Story” → “It’s me ”



**STEP2:** 「共に」 一歩踏み出す



**STEP3:** 仲間として支え合う

変化歓迎・失敗歓迎・立ち止まり歓迎

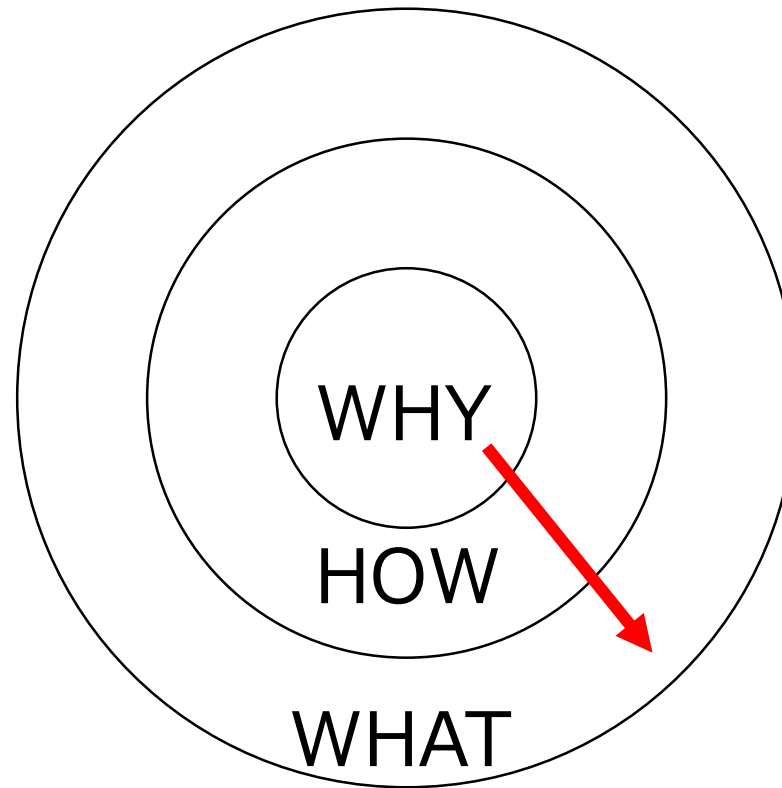
プロジェクトの成功より、

一人一人が自分の人生を生きているかどうか？

自分が考えている事業のプレゼンテーションを独り10分程度で行った。項目は、1) プロジェクトに取り組む背景 2) プロジェクトの概要 3) ここまでのアクションと気づき (あたしの変化編シート) 4) これからのアクション予定 であった。プレゼンの発表後に他の人からコメントを受け、最後に須藤からアドバイスがあった。



プレゼンの様子



**「なぜ」 → 「どのように」 → 「何を」**

サイモン・シネック(2012)『WHYから始めよ！』日本経済新聞出版社.

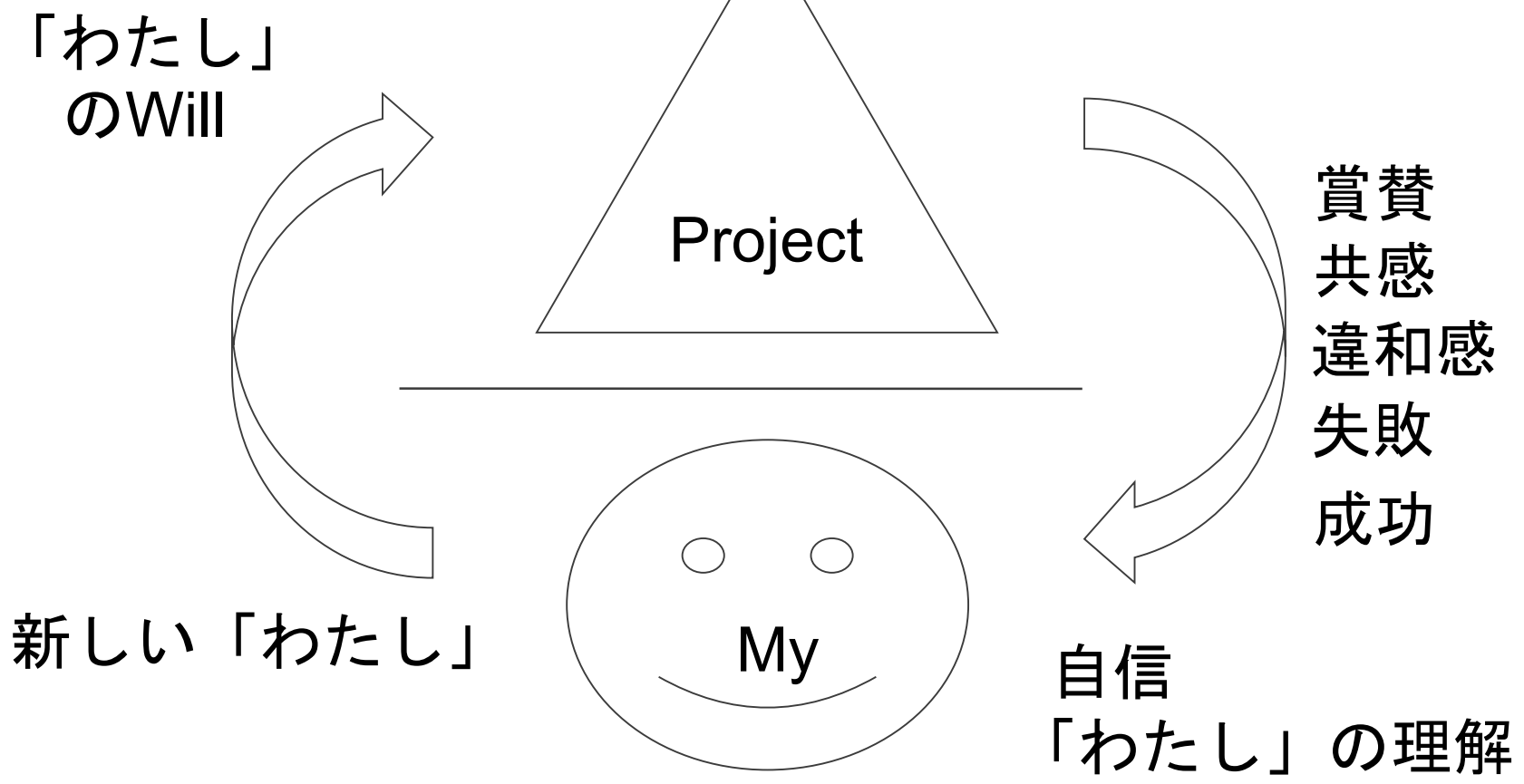
# チェックアウト

チェックアウトでは、を終えて参加者1人1人が感じたことや考えたことを共有した。参加者は「まずカタチにして考えることの大切さを学べた。」など、今後のアクションにつなげていくヒントを得ていた。須藤氏より、自分がなぜそれをやりたいのか、再度考えてプロジェクトを進めるよう話しがあり、講座は終了した。

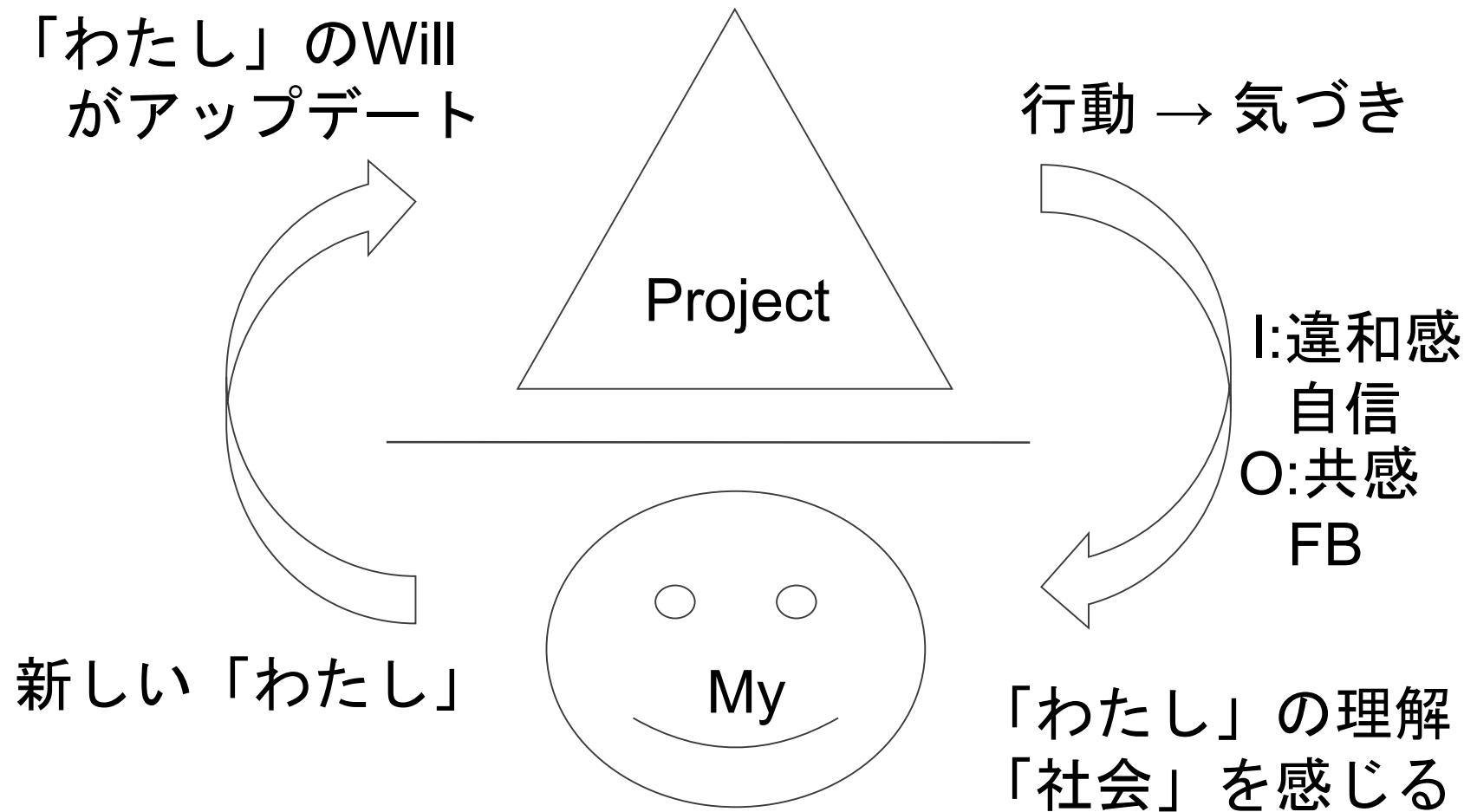


チェックアウトの様子

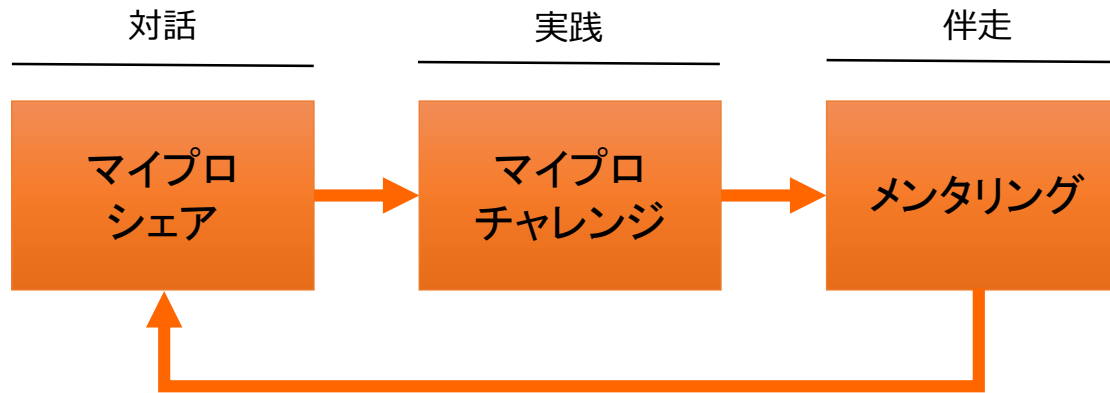
行動→気づきと仲間



出所：ビジネス・ブレイクスルー大学 須子善彦氏作成資料より



出所：ビジネス・ブレークスルー大学 須子善彦氏作成資料より



- 四万十町地域イノベーター養成講座は、誰かが知識や方法論を教えるのではなく、受講生一人ひとりと大学生メンターと一緒にマイプロジェクトを進め、喜びや悩み、想いを共有しながら一歩ずつ前に進んでいくことを目指します。
- 対話を通じて一人ひとりのマイプロを共有し、一人ひとりが小さな実践を行い、それを受講生と大学生が相互にメンタリングを行いながら、「本当に自分がやりたいこと」に取り組んでいきます。
- こうしたプロセスを通じて「ジブンゴトをミンナゴト」にしていくための一人ひとりに法則を見つけ出していきます。
- 地域にイノベーションを起こすためには知識や方法論、メソッドはもちろん、本当に自分がやりたいこと、気になることを、仲間とともに小さな一歩を進めることから始まる、というのが私たちの基本的な考えとして講座を進めていきます。



① マイプロシート(me & pjт編)をみんなの前でシェア



② みんなからフィードバック



③ プレゼントカードを書いて渡す



④ アクションを試してみる



⑤ 気づきを踏まえてシートを書き換える



※みんなで支え合いながら、  
このサイクルを超高速で回していく

四万十町役場 人材育成推進センター

担当：主査 横山 光一

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123

E-mail [103060@town.shimanto.lg.jp](mailto:103060@town.shimanto.lg.jp)

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：講師 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail [j.suto@kochi-u.ac.jp](mailto:j.suto@kochi-u.ac.jp)

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。